

2012年11月30日

東急不動産株式会社

オフィスビルにおける生物多様性保全の取り組み

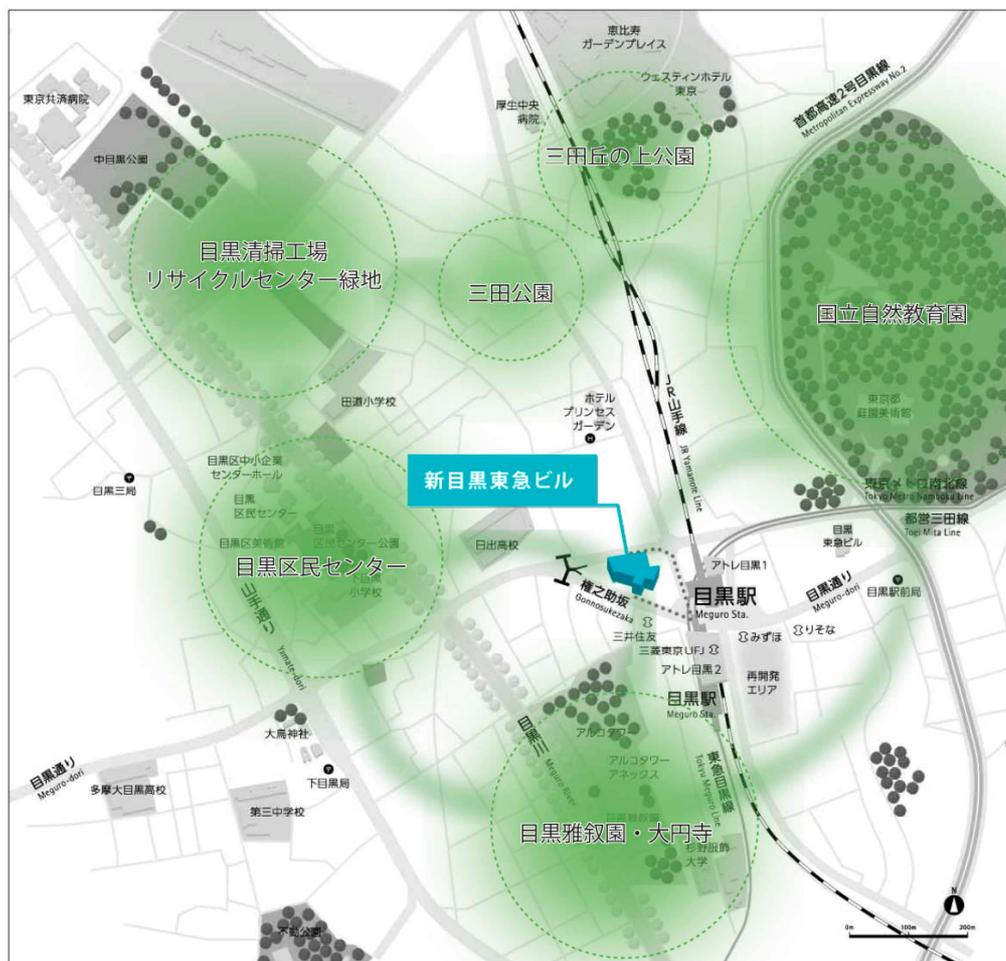
新目黒東急ビルで生物多様性に配慮した緑化を実施、 エコロジカル・ネットワークを形成

東急不動産株式会社(本社:東京都渋谷区、社長:金指 潔)は、2012年11月に竣工の新目黒東急ビルにおいて生物多様性に配慮した緑化を実施し、地域のエコロジカル・ネットワーク形成への取り組みを行っています。

■ 緑化によるエコロジカル・ネットワークの形成

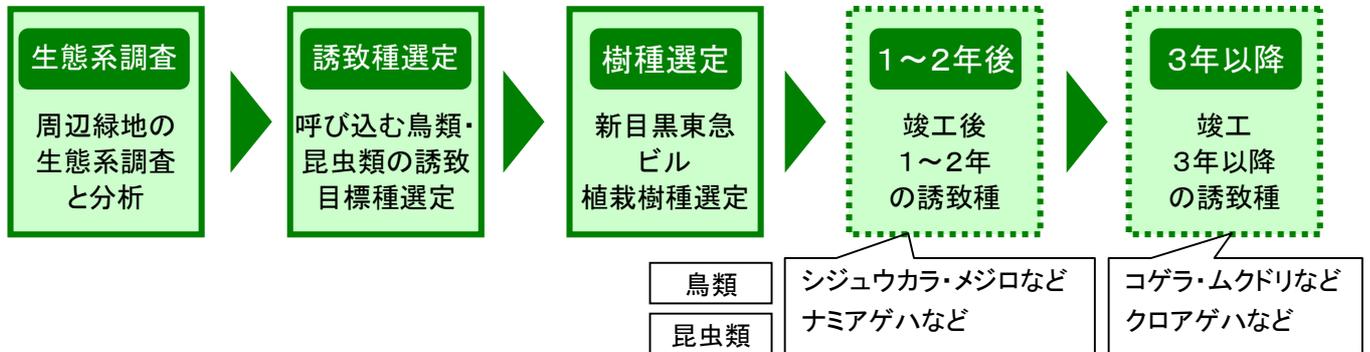
新目黒東急ビルの立地は、目黒雅叙園や国立自然教育園など大規模な緑地や目黒川といった、都市部においても自然環境が多く点在するエリアです。建物の外構や屋上の緑化では、敷地周辺の生態系の調査に基づき、生物多様性保全を考慮した植栽を実施し、エコロジカル・ネットワークの形成を行っています。

エコロジカル・ネットワークとは、生き物が有機的に連鎖する生態系のネットワークであり、都市部においては建物の過密化で分断の傾向にあります。新目黒東急ビルでは、緑化によりエコロジカル・ネットワークを形成することで、生き物の生息空間の確保により、生物多様性の保全を目指します。



■ 小鳥や蝶など生き物を呼び込む緑化を実施

新目黒東急ビルでは計画に際し、目黒雅叙園や国立自然教育園など、周辺地域の緑地に生息する生き物の生態調査を実施しました。緑化の植栽には、鳥類の繁殖・休息・食餌対象となる樹木、昆虫類の繁殖・食草・吸蜜となる樹木を選定しています。さらに、竣工後の緑地の経年の熟成に合わせて、将来的に誘致する鳥類・昆虫類の目標を定め、緑地に飛翔性のある生き物を呼び込むことで、豊かな生態系の形成に取り組んでいます。



■ 東急不動産グループ「環境ビジョン」に基づく環境取り組み

新目黒東急ビルは、東急不動産グループ「環境ビジョン」の理念もと、3つの視点で5つの環境課題(①CO2削減、②生物多様性保全、③水資源保全、④省資源、⑤健康配慮)に取り組んでいます。

①CO2削減

- ・BEMSによるエネルギー管理
- ・省エネ設備(自然調光センサー・LED照明等)
- ・換気装置による自然エネルギー採用
- ・屋上緑化によるヒートアイランド現象の緩和

②生物多様性保全

- ・生態系に配慮し、鳥や蝶を呼び込む樹種の選定
- ・周辺の緑をつなぐエコロジカル・ネットワーク形成

③水資源保全

- ・節水設備(節水型トイレ・節水型蛇口)

④省資源

- ・間伐材利用のウッドデッキ
- ・カーペットセレクトによる廃棄物削減

⑤健康配慮

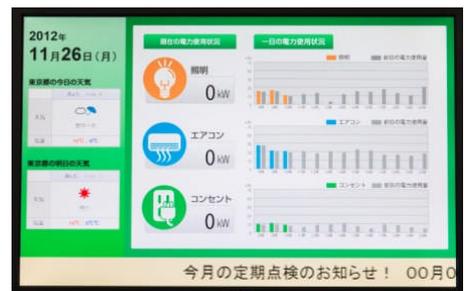
- ・快適・清潔に保つシャワーブース
- ・緑化による心理的癒し効果
- ・プラズマクラスターによる空気洗浄大気の浄化作用(粉塵の吸着等)



新目黒東急ビル



オフィスフロアの屋上緑化



BEMSによるエネルギー管理



都市と自然をつなぐ。
ひとと未来をつなぐ。

東急不動産グループ